

二外科だより

vol.
06
2022

take
free

50周年記念特集
第二外科

第二外科について
先生方にインタビューしました



二外科だより

発行:秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 腫瘍制御医学系 胸部外科学講座(第二外科)

内容に関するご意見・お問い合わせ

本誌に関するご質問等は、Eメールでの受付となります。下記のメールアドレスまでお送りください。
メールの件名は「二外科だより 質問係」にさせていただきますようお願いいたします。
また、本誌の範囲を超える質問につきましてはお答えいたしかねますので、あらかじめご了承くださいませ。

✉ akita2nd.surgery@gmail.com

〈doctor〉

呼吸器外科

南谷佳弘／今井一博／高嶋祉之具／中麻衣子／栗山章司／
石井良明／小林昭仁／小林未来／原田柚子

食道外科

本山悟／佐藤雄亮／脇田晃行／藤田啓／煙山紘平／林健次郎

乳腺外科

寺田かおり／高橋絵梨子／八柳美沙子／工藤千晶／森下葵

〈編集部〉

編集委員:脇田晃行／高嶋祉之具
ディレクション:株式会社design-farm
デザイン:株式会社design-farm

〈special thanks〉

小玉純／高橋佳代／若松由貴／神田未絵／原田美香子



二外科の
Facebookページ

普段の様子から飲み会・イベントのことまで楽しく更新中です!
QRコードからぜひチェックしてくださいね～

ANNIVERSARY

二外科だより 教室開講50周年記念特集号

秋田大学第二外科学講座の教室開講50周年を記念し、
本号では会員の先生方に第二外科への思い出を語っていただきました。

昔の第二外科の雰囲気や、今では考えにくい勤務事情など、
楽しいエピソードが満載です。

若手医師はもちろん、研修医や学生の皆様も是非ご覧になってください。

御協力いただいた先生方、この場を借りて心より御礼申し上げます。
ありがとうございました。

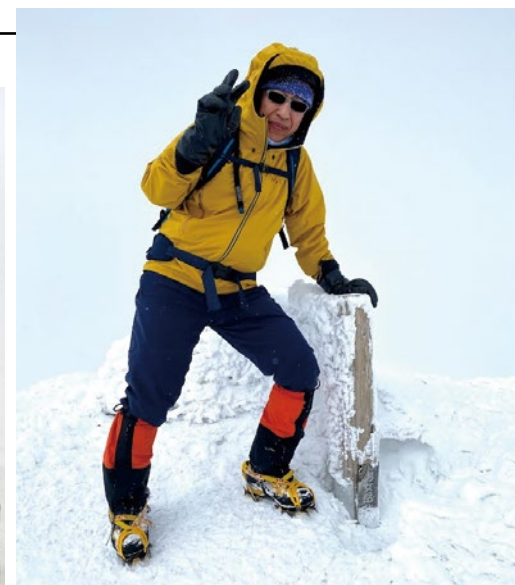


南谷 佳弘

01

PROFILE

出身地：東京都目黒区 / 卒業年度：1986年 / 卒業大学：
秋田大学 / 現所属の施設・役職：秋田大学副学長・秋田
大学医学部附属病院長・秋田大学大学院医学系研究科
胸部外科学講座教授



秋 田大学医学部に入学した時の
入学式の際に、新入生のお父
様、お母様とお見受けした方々
は皆さん同級生だった。当時、秋田大学医
学部は社会人や多浪生が多かった。純粋に
8年間浪人して入学してきた同級生もいた。
最長老は北村元助教と東北大学医学部
にいっしょに入学して放校処分となった強
者(つわもの)だった。東京の桜吹雪の中で
卒業式を終えた後、秋田大学の入学式の日
に雪がちらついたことは寒さとともに体と
目に焼き付いている。

あれから40年以上の歳月が流れた。両親
からは近くに帰るよう切望されたが、気が
ついたら人生の3分の2を秋田で過ごして
いる。出身医局の教授となり、3年前からは
母校の大学病院の院長として日々を過ご
している。世間から見ると順風満帆な出世
コースに見えるが、様相は全く異なる。特に
病院長就任1年後からは新型コロナウイルス
感染症のパンデミックに対する対策に追
われている。また秋田県新型コロナウイルス
感染症対策協議会の会長という役割ま
でいただいた。直近のことを記す。コロナ関
連で大量の自宅待機者と年度末から新年
度への切り替わりの時期が重なり、看護
師70-80名(全看護師の1割超)が機能しな
くなる。4月から約1ヶ月間、コロナ病床
として使っている1病棟以外に、病院機能
維持のために一般病棟の一つ閉鎖する決
断をした。もともと鈍感なところがあり、
任の重さを自覚して押し潰されることは
あまりない。日々迎える大波に飲み込ま
れないよう淡々と対応するだけで精一杯
である。病院長になった際には「愛され
る大学病院」と

言うことで、教職員の皆様には「働いて
楽しい病院」「自分の病院」と言う意識
を持っていただけたらと思、様々な方策
を考えて臨んだ。できるだけたくさんの
職員から話を聞いて何が問題かを把握
することから始めた。またメールベース
の目安箱を作り、少しでも病院をよく
するアイデアを募集した。退職を希望
する若手職員、中堅職員などの懇談会
を催し、なぜ辞めることになったかを
聞いた。すぐに解決できることは、1週
間以内に対策を実施した。医療機器等
の購入はプレゼンを若手の機器選定
委員で聞いてもらい順位づけをするなど
、徹底的に公平性を重視した。バラバラ
に行われていたクリスマスコンサートを
院長主催の合同コンサートにした。委託
業者職員との連絡会議を作り、勤務形
態が異なるだけで、病院採用の職員と
同じであるとの意識のもとに働く上で
重要な病院の情報を共有した。コロナ
禍の2年間は当初意気込んでいた病院
改革の意識はだいぶ抑えられてしまっ
ていたが、高度救命救急センターの設
置指定、総合診療センターの開設、外
来化学療法室の拡張、ハイブリッド手
術室の整備など、ハード面での整備は
かなり進めることができた。先日、次
期病院長に再選され、2年間の任期を
もらった。この2年間は仕上げの時期
として、次期院長に引き継ぐまで、患
者さん、学生、県民だけでなく、教職
員ひとりひとりから心から「愛され
る病院」として「自分の病院」と言う
意識で楽しく働ける病院づくりに少
しでも尽力したいと思っている。

「若手の育成」に関して、私は特に
強い思いを持っている。私の修行時代
は手術を執刀

することも、手技を行う機会もかなり
少なかった。特に大学病院では小川教
授が赴任するまで手術を執刀したことは
一度もなかった。自分より若い人たちは
後輩と言うだけでなく、次世代の医療
の担い手である。世代が異なると考え
方にずれ違いが生じることもある。し
かし、その際、先輩はできるだけ後輩
の考えを尊重すべきと思う。もちろん
技術の伝承や患者さんに対する思いは
別物である。第2外科の教室員には、
「若手や後輩は天から育てる機会を
いただいた大切な宝物として扱ってほ
しい。」と願う。これが守れない場合
は、私が教室の責任者をしている限り
は厳しく対処する所存である。

40歳代半ばから登山を始めた。減量
目的だったが、今では山に登らない休
日の方が異常と感じるくらいはまり込
んでいる。この間にたくさんの山仲間
ができた。仲間の都合などにより、登
山の多くは単独行である。しかし、山
仲間との山、平地での交流が何より
の楽しみだ。当初は秋田県内・近隣の
登山が中心であったが、最近は全国
の山、特に長野県や富山県の日本の
屋根と言われる山に登るようになった。
年間50回の登山を目指しているが、
いつもほんのちょっと足りない。今年
こそは50回こえを達成したい。

秋田に来てから40年、こんなに長い
間秋田には思っていなかった。生まれ
故郷は故郷として、そのにおいは体
に染み付いて離れないだろうが、そ
ろそろ私の体からは秋田のにおい
の方が生まれ故郷よりずっと強くな
っていると思う。このまま秋田の土
に同化できたら本望である。

小川 純一 02



PROFILE
 出身地：岡山県 / 卒業年度：1973年 / 卒業大学：慶応義塾大学 / 現所属の施設：なし

第二外科の思い出

1 1973年慶応義塾大学を卒業し、卒後は母校、東海大学、と大部分を大学で送った後、機会があつて1997年第二外科に赴任しました。当時秋田は陸の孤島だと脅されましたが赴任年に秋田新幹線、秋田自動車道が相次いで開通し、ほっとしたのを思い出します。専門は呼吸器外科でしたので食道外科、乳腺外科の先生方には色々とお教えいただきました。東海大学では心臓血管外科の手術にも携わりました。間接的にこれらの経験が後世大変役に立ちました。論文作成、学会発表には単分野での追及が必要となるため狭い視野になることはやむを得ません。しかし良い研究には長い時間が必要です。自分の専門分野だけでなく学会の教育講演等で他分野にも目を向けることは大事だと思います。教育も大学の重要な役目です。しかしただの黒板授業には興味が湧きません。そこで呼吸器分野では内科、臨床病理にも声をかけ、予めA4プリント2枚以内に要旨をまとめて学生に配布し、できるだけ完結に、かつ個人的な研究興味は極力省くことに徹しました。お陰様で教室からは私も含め

て数人が学内の教育賞を受賞しました。大部分の医学部入学者は臨床を目指します。私の遠縁の生徒も東京の高校から医学部に合格し、卒後横浜の病院に就職しました。理由は都内の大学よりは秋田大学の方が入りやすかったからと。医師免許証は全国共通ですし、入学しやすさもその通りと思うものの何となく残念というのが正直な気持ちでした。ところが過日東京医科歯科大学病院に行く機会があり御茶ノ水駅付近を歩いていると見知らぬ女性から“小川教授”と突然声を掛けられました。聞けば私の退官後、胸部外科学教室呼吸器外科に入局し、医科歯科大学で臨床・研究に従事しているとの報告。秋田を卒業後東京で活躍していることに誇りにも似た嬉しい気分になりました。秋田大学には全国から受験者が来ます。昔は卒業後に秋田を離れることに抵抗感がありましたが、その時以来その考えは消え去りました。遠く秋田を離れて活躍する医師全員にエール。退官後はストレスのないのんびりした毎日です。昔から京都は好きなので小さいセカンドハウスを購入し、何度も訪れています。写真はこの春嵐山を訪れたときのものです。年を取りました。

医学生の皆さんへ

昔 のことですが、開講間もない第二外科に入局しました。食道癌や肺癌の手術と、術後管理に明け暮れ、卒後研修の本荘市から、大学のICU当直室に転居したような日々が続きました。時は流れ、ある日のこと「シカゴ大学」に行くようにと教授からご指示を頂きました。アル・カボネ以来の治安の悪さは全米一でしたが、訪ねてみると、資金は潤沢にあり、乳癌のホルモン療法を開拓したハギンス教授など、ノーベル賞受賞者が数多く在籍していました。オリジナルなら何でもよいとのことで、早速、「特発性食道破裂用のチューブ」を提案し、ベンチャー企業とシカゴ大学、そして私の共同開発で造り上げ、後に特許のオファーを頂きました。その後は、「移植用小腸の低温保存に関する研究」を始めました。動物実験の結果、お隣のウイスコンシン州立大学が作成したUW液が優れており、当時の最長記録の1.5~2.0倍の保存期間の延長に成功しました。次いで、当時西ドイツのミュンヘン工科大学

を訪れ、再びICUに転居しました。食道癌の三種類の手術法の優劣に関する臨床研究を行いました。カテーテルによる解析を任せられ、48時間間隔の二期分割手術が心肺への負担が大きすぎることを証明できました。論文が完成し、最も喜んでくれたのは、術後管理に苦勞を重ねていた若いドクターの面々でした。一方、欧米より遅れていた乳癌については、北米の大学や病院を約二か月かけて視察させていただきました。乳癌の温存療法は、当時は画期的で、臨床試験に参加したMacGill大学の先生に、試験への参加の仕方から教えて頂きました。のちに帰秋して、乳房温存や再建、さらに非触知の早期癌診断に取り組みました。その成果は、医学雑誌や、本学の医学概論(乳癌)に掲載して頂きました。現在、乳癌では、超早期の非浸潤癌について、手術省略の臨床試験が世界中で行われています。該当する希望者は紹介し、結果を心待ちにしています。それでは、学生の皆様の洋々たる前途にボンボヤージュ!



PROFILE
 出身地：青森県青森市 / 卒業年度：昭和46年 / 卒業大学：東北大学医学部 / 現所属の施設・役職：あきた乳癌クリニック・院長

03 工藤 保

角館の花見

桜 の花を意識したのは高校生のことでした。当時は4月中旬が仙台の桜の満開で、ちょうど自宅の近くの東照宮のお祭りとなり、また、同じ時期に校庭の満開の桜のもとで高校の運動会がありました。大学時代は西公園でクラブの歓迎会をやって、新入生が救急車にお世話になり猛省しました。そういえば、東北大学第二外科の入局祝いも西公園でした。時代は巡り、平成元年の4月、縁あつて秋田大学にお世話になりました。さすが日本酒自慢の秋田県、酔いつぶれた仲間を運ぶため、桜の名所の久保田城にリアカー持参で花見に出かける様子には驚きました。4月29日の天皇誕生日の時に、三毛牧夫先生にお願いし公立角館総合病院にお世話になりました。家族一家で参加しました。萌え立つ緑の中で川は清々しく流れ、快晴の空の下で鯉のぼりが揺れ、桜が満開でした。地元の良い食事を楽しみ、お酒に酔いしれました。たくさんの医局員

も家族で参加しておりました。輪の中心に若々しい阿保教授がいらっしゃいました。忘れられない1日になりました。あれから33年経ち、教室は開講50周年を迎えました。心から嬉しく感じます。私が教室に在籍していたのは9年間でした。五分の1に少し足りない期間は長いとは言えませんが、阿保

教授のもとで、医局を盛り上げようと懸命に生きた40代のほとんどであり、思い出は尽きません。教授は今年10月、91歳になりました。コロナ禍で卒寿のお祝いができなかったのが心残りであります。阿保教授のご健康と教室のますますのご発展をお祈りいたします。



PROFILE
 出身地：宮城県 / 卒業年度：昭和49年 / 卒業大学：東北大学 / 現所属の施設・役職：町立西和賀さわうち病院、総括院長

04 北村 道彦

中村 正明 05



二外科新入医局員の頃

秋 田大学第二外科学教室開設五十周年を祝し、恩師阿保七三郎初代教授のご健勝を心よりお祝い申し上げます。五十年前の私はまだ学生であり、将来の進路も定まらず嵐の中の揺れる船という心境でした。入学時は精神科医を目指していた私ですが、実習で患者さんに接しますと、やはり精神科は無理でした。明快な講義の阿保七三郎教授に憧れて入局を決意しました。第二外科での医局員時代を思い出し、指導していただいた諸先輩に感謝申し上げます。医局生活は多くの皆様と同じくハードでした。日中の勤務は病室、手術室と休む時間はありません。しかし大事なのは夜の医局です。夫々の日常の任務を終えると二外科医局でまず乾杯。それから諸先輩の臨床経験、救急事態突破法を教えてくださいまし

した。食道班では三浦秀男先生を始め工藤保、佐々木喜一、當真秀夫そして池田利史先生の諸先生に毎日厳しいご指導頂きました。心臓外科の阿部忠昭先生や栗林良正、佐藤護、賛田茂雄、大久保正先生も時に加わり外科医の心構えを教えてくださいました。二外科医局には毎日必ず一外科の先生もお出でになります。成沢富雄、添野武彦両先生には正確で丁寧な実験や医療の話、大泉哲之助先生からは臨床の不思議談を、河野研一、山口俊晴の京都府立医大出身の先生からは剛毅なエピソードを聞き世界の広さを感じました。河野先生と釣りに行き、全く釣れずその場でオキアミを肴に飲んだこともありました。私の時代は一外、二外と医局は分かれていましたが、教育的には総合外科の医局だったので倍の勉強を教えてくださいました。それが一番の医局時代の思い出です。

PROFILE
 出身地：岩手県下閉伊郡山田町 / 卒業年度：昭和52年 / 卒業大学：秋田大学(二期生) / 現所属の施設・役職：老健「あきのみや」施設管理者

橋本 正治

06



消化器外科学会(宮崎)

PROFILE

出身地:福島県 / 卒業年度:昭和54年 / 卒業大学:秋田大学 / 現所属の施設・役職:中通総合病院非常勤、前由利組合病院臨床研修指導責任者

もう70歳になってしまう!!仕事以外では酒飲みかフットサル以外で若者と話したことない!何を話せばいいんだろう?昔の話なんか誰も聞きたがらないだろう。それにしても、今の研修医は、時間が無い!大

事な初期研修、初期研修が将来の医師人生を決めるといっても過言ではない。研修病院でスーパーローテート、覚えることは山ほどあり、結構大変な日常を過ごして、当直にも自信ができてきた1年半でまた専攻医就職活動をしなければならない。大学教育もだいぶ改善されてはきたが、医師として自己責任下に患者さんと向き合うことによる自己研鑽と医学教育には及ばない。

いい時代に医者になって良かった。と思うのは私だけでしょうか?

最近目にとめた、東大名誉教授、肝胆膵外科の國土典宏先生のインタビューを紹介したい。「若い外科医のなかには、多くの手術がしたいと症例の多い病院を希望する人が多いでしょう。もちろん経験を積むことは重要なのですが、私が伝えたいのは「外科医の技術は症例数の多さで会得するものではない」ということです。重要なのは、一人ひとりの患者さん、ひとつひとつの手術を大事にすることであって、単純に手術数だけではないのです。外科医は手術を“やってあげている”のではなく、手術を“やらせてもらっている”のです。そして、やらせていただくからにはベストを尽くし、その手術から最大限勉強させてもらわなくてはいけないし、最大限成長して、次の患者さんに活かさないといけません。これから生きる医師、外科医には、そういう意識を持って治療にあたってほしいと思いますね。外科においての最善の医療とは、最善の手術ができることだと考

えています。その実現に努めたいので、患者さんと一緒に病気に立ち向かいます。がん患者さんであれば、手術をしてがんが治ることが一番の目標です。この目標を達成するために私が目指しているのは、手術での死亡率0%というもの。これは恩師である幕内先生の教えでもあります。しかしながら、この手術での死亡率0%というのは本当に難しいことなのです。さらに、死亡率0%を目指す、リスクを回避し、チャレンジをしなくなるという理由で、外科の進歩を妨げてしまうという考え方もあります。けれど、私は手術での死亡率0%を目指す、つまり患者さんが命を落とさないようにするという制限のなかでの手術を追求するからこそできるチャレンジがあると思っています。このチャレンジは、外科の進歩に必ずつながるはず。犠牲を伴わずに、進化をしていく。その信念を持って、これからも手術での死亡率0%を目指しながらチャレンジを続けていきたいと思っています。」

先生は、最初、手術数が多い病院でなく研修し、外科医の本質を勉強、東大に帰る幕内外科で1年365日働く生活が続き、卒後14年目に癌研での研修医待遇で就職と、ちょっと真似できない外科医ですが、でも共感できるし、秋田大学の二外科の精神かな?(気負い過ぎかな!)私も多くの先輩に教わりました。二外科の専攻医希望であれば 初期研修2年目の後半は時間の無駄を感じることなく、先輩が本質を教え導いてくれると信じています。

秋

田大医学部は昭和45年に戦後初の医学部として県民の悲願のもと設立された。創成期の困難がある中、高い理想を掲げ素晴らしい教育をしていただいたと思う。昭和52年に入学したが、九嶋勝司学長(初代医学部長)は、入学式の祝辞で「友を裏切ることをしてはならない」と言われたことが未だに耳に残っている。全国の学園紛争は、既に沈静化していたが学生同士が罵倒しあった時代を見た医学教育者としての気持ちであったのであろうと思う。

外科医になろうと思ったのは憧れが始まりである。当時第二外科阿保七三郎教授は薄い色のサングラスをかけており、颯爽とした姿は正に外科医といった印象であった。医局の先生も个性的な方が多かった。自分にはないものがこの医局にはあると思いがあった。中通病院で研修後、昭和61年に大学に戻った。まず驚いたのがカンファレンスの厳しさであった。強い口調で医局の先輩が叱責されていた。教授は、医局には対外的な名誉があるとお話になっていた。全国の大学が切磋琢磨して医学が発

展してきた。自分の属する医局が名誉あるものとしてあらねばならないと今でも思っている。阿保教授には、医学的な指導のみならず、どんなと時でも胸を張って堂々と生きていくことを教わった。仕事でも人生の困難なことでも、逃げずに立ち向かうことである。これは、私の道標になった。第二外科は小川純一教授、南谷佳弘教授と引き継がれ、本山悟教授は食道外科を牽引し第二外科の良き伝統を守り続けていただいた。外科治療の進歩は目覚ましいものがある。外科医の在り方も変わるであろう。ただ、私が医局から学んだ、いつも真摯に患者に向き合い、強い意志と勇気を持って手術に臨む姿勢は変わらないで欲しい。これから南谷教授をはじめ第二外科医局先生方には、臨床、研究に精励いただきながら良き外科医を育成していただくことを心より願い、第二外科の発展を心からご祈念申し上げたい。



PROFILE

出身地:埼玉県さいたま市 / 卒業年度:昭和58年 / 卒業大学:秋田大学 / 現所属の施設・役職:北秋田市民病院 院長

08

神谷 彰

2回目の海外留学に向けて

私は阿保教授(当時の)御高配により1993年から2年間、アメリカ合衆国メリーランド大学医学部消化器病部門に留学させていただいた。留学先を探して34通のapply letterを書いた中で唯一、承諾が得られた施設だった。留学後は「Jap!」と呼ばれたり「Who are you!」と罵られたりしながら、そして満足のいくデータが出ずに失意に暮れた日々もあった。しかし、この2年間は私にとっては10年以上に相当するとても価値ある2年間であった。科学的知見を得、実験の手技を学び、臨床の現場を見ることはもちろんだが、アメリカ社会の生活感

(人々の考え方、人種差別、格差社会)を実感できたことが大きい。実際に生活しながら異文化に触れることに快感を覚えたのである。

そして、あれから30年近くがたった今、私は「2回目の海外留学」を目論んでいる。開業医を引退したら、妻と共に海外に移住する計画である。移住先は未定ながら、候補はかなり絞られた。とにかくもう一度、異国の地で現地の人とコミュニケーションし、自分の足で歩いてその国を経験するという快感ゾーンに浸りたいと考えている。今後、数年間ははそのための体力増強期間である。



07

鈴木 裕之

PROFILE 出身地:新潟県南魚沼市 / 卒業年度:昭和57年(1982年) / 卒業大学:秋田大学医学部 / 現所属の施設・役職:すずきクリニック 院長

下間 信彦

09



PROFILE

出身地:秋田県鹿角市 / 卒業年度:昭和58年 / 卒業大学:秋田大学医学部 / 現所属の施設・役職:男鹿みなと市民病院 院長

50年の歴史の中で 一言い伝えの魅力

ま

ずは第二外科開講50年、初代阿保教授とともに祝える事を心からお喜び申し上げます。私が入局したS58は3人づつ2グループが運営され、教授-助教授-2つのグループで食道

肺・乳腺・甲状腺と診療していました。臨牀フリーはいません、忙しくも元気な先輩に恵まれ、特に7~9期生とは仲良く土日の夕食まで一緒に行動したことが忘れられません。ちょっと酒が入ると先輩たちの格言、または失敗談が聞ける食事会です。

コロナ禍もあり、若者のスタイル変化もあり、飲食の機会が減って、人の失敗談を共有する勉強ができず残念である。F先輩が人工肛門を電気メスで開放した所、ガス爆発で便が飛び散った事が「教科書にはない」私が伝えなければならない事でした。その30年後くらいに気管切開時に電気メスで引火したとの国からの事例報告があり、これはありがたく自分の経験にさせてもらった。薬品説明後の寿司屋では、下の医師が普段思っている疑問を酔いに任せて討論してくる時もあったが、これもまた楽しく、翌日は二日酔い状態で仲良く10時から手術、今じゃ「それ違法です」。話はそれるが、看護スタッフとの懇親会では討論禁止で歌って踊って、気がつきゃ朝の4時、「これも今は違法です」。環鳥海は、そんな紳士淑女の社交場。鳥海

山が見える病院であれば参加可能な症例発表会で、現在南谷教授が開催されている「新年会」の温泉バージョンである。壇上で討論はもちろんだが、会終了後の懇親会ではお酒も入り口は滑らか、どうしたら良くなるか議論を重ねる先輩の話を傾聴したものであった。

「私、失敗はしないので」というDrXは作り物、失敗を糧にして育っていきたくが今の世の中失敗は許されない。他人の失敗は聞けないので、困難症例を共有して自分の経験にする「新年会」は精一杯であり立派の一言。

結局、先輩や同期との日々の酒宴が「小さな失敗」の情報取得に最適である。非公式なので聞きたいことは遠慮せずに聞けるし本音が聞ける。欠点は独身者でなければ参加しにくい事、働き方改革からは問題だらけ。昭和の外科学が適応されないことは明らか、こんな時代でスマートに学習し、細分化していく外科を何とか応援していきたいと思っています。二次会にはいきませんが、一次会だけならいつでもお付き合いします、老若男女問わずお待ちしております。

天満和男

10

今年の4月から勤務形態が変わった。月曜から金曜までの外来診療と産業医だけを続けている。朝8時過ぎに出勤し、午後5時過ぎに退勤する。休日はすべて勤務は休で、夜間の呼び出しもなし。絵に描いたようなサラリーマンの生活である。私はかねがね、サラリーマンの真骨頂は、いかに仕事をしないで高い給料をもらうかと言うことだと思ってきた。現役時代ほどの給料は望むべくもないが、勤務状況はサラリーマンそのものである。現役時代からすでにできるだけ働かないで給料をいただこうとしている者もいるが、私にはできなかった。大学を卒業して以来、こんな生活を送ったことはなかった。研修医の頃は、ほぼ休みがなかった。スマホや携帯はおろか、ポケベルもなかったので、常に病棟が番号を把握している電話のある場所にいなければならなかった。従って、ほぼ病院か自宅、せいぜい店の番号を知らせて飲みに行くということになる。人使いも荒い。一日中手術室で手術に入っていたこともあった。朝10時に予定の手術が始まり、夕方に終わ

たと思ったら、いわゆるPan-periが来てそのまま手術に入った。これが終わる頃に虫垂炎が来て、その次にはもう忘れたが、何かの急性腹症が来た。夜中であったため、またまた私が入らざるを得なかった。結局、翌日の昼近くまで手術室に居続けた。また、2日ほど徹夜して第1助手として入った手術では、糸を結びながら眠ってしまった。晩年も、60歳を過ぎても病棟当番と特養の嘱託医をしていたため、年中昼夜を問わず出勤態勢が続いた。少し話はそれるが、2020年の我が国の出生数が約83万人、全国の医学部定員が約9300人、乱暴な計算であるが、このまま行くと日本人の90人に一人は医師ということになる。今も毎年医学部の定員が増えており、2050年頃には70人に一人が医師という試算もある。OECDの平均を確保するためには、18歳人口千人あたり3.1人の入学定員でよいが、2010年現在の養成数は7.25人であり、2.4倍が養成されている。現在はこれよりさらに増えている。このままの調子で行けば、日本中の医師達が真のサラリーマンドクターになれるであろう。



PROFILE
出身地:徳島県 / 卒業年度:1983年 / 卒業大学:秋田大学 / 現所属の施設・役職:雄勝中央病院・常勤嘱託医

乳腺外科医卒業

優柔不断でメリハリのない自分の性格を変えたいと考え、胸部外科(第二外科)を選択した。学生時代に落ちこぼれであった自分を鍛えていただき、一人前の外科医に成長させてもらった。いくつかの科の中で迷いながら、第二外科を選んだ自分の幸運に感謝したい。自分が入局した昭和59年、第二外科の教授は阿保七三郎先生で教育方針は優れた general surgeon を育てることであった。食道癌は侵襲が大きく、その手術や術後管理を学べば、一般外科医として必要十分な知識や手技を得ることができると教えられた。当時は現在とは世相が大きく違い、医局にはまだPCは存在せず、ワープロが1台あった。ワープロが高価(100万円以上)であり某先輩医が傍病院の人質(赴任?)になり、その病院から頂いた研究費でワープロを購入したという都市伝説があった。患者の治療方針はEvidence based medicineという言葉もなく、先輩医師の教えが大きなウエイトを占めていた。このころの自分は目の前の臨床をひたすら追いかけているだけであった。平成9年小川純一先生が教授になられた。



小川教授の方針はspecialistの養成であった。そこで医局員は食道、肺、乳腺甲状腺のどれを選択するかを岐路があった。平成4年に後期研修を行った山形県立新庄病院の科長が東北大学第二外科乳腺班であり、その頃から乳腺に興味があったのであまり悩まず乳腺甲状腺を選択した。そして平成15年に秋田赤十字病院の外科に赴任した。赴任当初乳癌(年間30-40例)の症例は少なく乳腺外科は自分1人であった。平成25年南谷佳弘先生が教授になられ、それからは有形無形の援助をいただいた。現

在乳腺外科は4人体制であり、ソフト面でも充実し、乳癌症例数(年間130-150例)は秋田県で第一位である。良いエピソードも残念ながら悪い経過をたどった症例も多く経験した。自分にとっては全てが貴重な勉強であり、宝である。この3月で秋田赤十字病院を退職し外科を卒業するにあたり、多くの事柄が走馬灯の如く思い出される。自分と関わって頂いた全ての方々にこの紙面を借りて感謝の念を捧げたい。

11

鎌田 収

PROFILE
出身地:秋田県湯沢市(旧雄勝町) / 卒業年度:昭和59年(1984年) / 卒業大学:秋田大学 / 現所属の施設・役職:秋田赤十字病院 乳腺外科 常勤嘱託

にげかのおもいで



齊藤 礼次郎

12



PROFILE
出身地:秋田県横手市 / 卒業年度:昭和61年 / 卒業大学:秋田大学 / 現所属の施設・役職:秋田厚生医療センター 消化器外科 副院長

二外科は〇〇〇〇ランドだった!?

入局の同期と当時の二外科について書こうと思う。剣道部の顧問であった一外科の高橋俊雄教授に憧れ、一外科へ入局することを楽しみにしていたが、先生は京都府立医大に戻られてしまった。後任の小山研二教授は私のようなできの悪い学生には冷たい感じで、一外科はやめることにした。一方、二外科は心臓血管外科と一緒の講座であったため講義・実習時間とも少なく、また手術のない日はすぐに帰ってもいいなど、学生にとっては楽な科ではあったが、何となく怖いイメージがありどこも決めきれずにいた。丁度その頃、中村正明先生の講義(縦隔腫瘍)を聞き、どこまでが本当でどこからが作り話なのかかわからない、キツネにつままれたような不思議な話術に洗脳されてしまった。また、阿保教授の二外科なのに「胃石」の臨床講義が面白く、二外科に入局することにした。噂には聞いていたが、当時の二外科は間違いなく「怪物ランド」であった。まずはA教授であるが、明るいところでは眼鏡のレンズ

が黒く変化するため、どう見ても今でいう反社の方にしか見えなかった。また、学生担当の辻和男先生はドラえもんだったし、H正治、I啓一、W公伸、H裕、S信彦の各先生方は体格が良くてパワフルだった(一緒にしていないがG克明、F誠一郎、I敏之の各先生方も大きかった)。また、S田徹先生(心外)とS田毅先生はさらに巨大で、その風貌からもランドの象徴であった。他には當真秀夫、S俊夫、M牧夫の各先生方も独特のオーラを放ちランドには欠かせなかった。今思えばよくぞこの医局に入ったものだと感慨深い。今では私が一番の怪物なのかもしれない。時代錯誤と言われるかもしれないが、「よく学び(働き)、よく遊べ」がモットーだった二外科ランドが続くことを期待したい。K原田君、Y太郎君、よろしく頼むよ! 匿名ではございますが、先輩、後輩諸氏に大変失礼な文章を書き申し訳ございません。開講50周年という慶事につきご容赦ください。写真は卒業式の謝恩会で阿保教授と同期入局の4人(田中君、南谷君、寺島君、私)と一緒に撮ったものです。

木村
愛彦

13



PROFILE

出身地：秋田県秋田市／卒業年度：平成元年／卒業大学：秋田大学／現所属の施設・役職：秋田厚生医療センター 呼吸器・乳腺外科 診療部長

共同宿舎

私

は、初期研修を由利組合総合病院でおこなった。現在の病院ではなく、本荘駅前にあった古色蒼然たる施設だった。この2年間で医師としての考え方や手技の基本を教えられ、今なお続く外科医生活の基礎が決定づけられたといっても過言ではない。充実した研修医生活だったが、反面、日常生活は劣悪を極めていた。私たち若手医師には、「共同宿舎」という専用宿舎が与えられた。鉄筋コンクリート3階建て、といえは聞こえはいいが、当時で築30～40年の老朽建築物だ。1年目の研修医は3階部分があてがわれ、部屋の設備は台所というにはほど遠い「流し」とトイレだけ。風呂などない。3階には共同の風呂が一ヶ所あったが、お湯は夜間電力による貯めおき式で3人ほどシャワーを浴びるとお湯が尽きてしまう。よって、当時5人ほどが3階の住人だったが、浴槽にお湯をはるなどという行為は御法度だった。真冬にシャワーの途中にお湯がなくなり冷水に変わることがあり、さながら滝に打たれる修行僧のようだった。

地獄のシャワーをなんとか終え、部屋にもどるとそこはすさまじい放題の極寒の空間。備え付けのFFファンヒーターがあったが、真冬だと、どんなにMAX、連続運転をしても室温は9℃を越えることはない。寝床に入り、分厚い布団にくるまりなんとか暖をとるが、朝起きたら髪が凍っていたことが何度かあった。ゆえに病院の若い看護師さんを部屋に招待しチョメチョメなどということはどう考えても不可能だった。そう考えると、この劣悪な住居は、若き医師たちが道を踏み外さないように、という病院側の暖かい配慮であったのかも知れない。当時はそれでも不遇だとかひどすぎるとか思ったことはなかった。しかし、私たちの1～2年後から、あまりの貧相な住居にブーイングが起き、研修医宿舎は普通のアパートになり、3階部分は古いカルテなどの倉庫になった。というわけで共同宿舎の住人は我々が最後の世代ということになった。今でも忘れられない研修医時代の思い出である。

思

い起こせば医学部6年次の秋、当時の医局長の誘いを受け秋田大学第二外科に入局を決めた。翌年医師国家試験合格後そのまま入局、平鹿総合病院で2年間の初期研修を経て医局に戻った。当時は主に食道外科が中心であったが、呼吸器外科、乳腺・内分泌外科も併せて全て診療する形で研修していた。食道の手術があると、研究や術後管理のため数日帰宅出来ないこともあったが、この時に体験した事や、先輩・上司から指導されたことが今の自分を形づけたと考えている。また各種学会に参加した時、同門の先輩や後輩とその開催地の飲食店で盛り上がったことや、今はなき外科スキー集談会では、同門のみならず東北の外科医が集まり、深夜から明け方まで飲み交わした事が記憶に残っている。忙しくも楽しい医局生活であった。その後公立角館病院、県立新庄病院で後期研修を行い、2000年より男鹿みさと市民病院に赴任した。赴任6年後にみさと病院の医師が激減し、患者対応が困難な時期があったが、第二外科の対応(休日直



の応援や医局員の派遣等)により何とか凌ぐ事ができた。この時医局のバックアップがなければ、救急病院として存続することは不可能だったであろう。現在、みさと病院に赴任してから22年が経過しようとしているが、当時は2名であった同門も5名まで増えた。この医局を選んだことの幸運をかみしめ、医局に感謝しつつ診療を行う毎日である。

PROFILE

出身地：秋田県秋田市／卒業年度：平成元年／卒業大学：秋田大学／現所属の施設・役職：男鹿みさと市民病院

14

木村
圭介

早

いもので第二外科入局後30年が過ぎた。入局当時は男子校的雰囲気のある良い雰囲気の医局となったようである。医局のくつろぎ部屋に置いてある飲み物もお酒からコーヒーに変わった。入局当時、消化器内科に挨拶に行きかけていたのを思いとどまり、ほとんど勢いで当科に入局したのであるが、その後、転科することなくずっと当科でやってこられたのできっと水が合っていたのであろうと思う。今、医局に関する事で他の人に自慢できることは後輩である。県内どこに行っても他の科の医師や医療スタッフから後輩の良い評判を聞く。というわけで市中病院にいて、新しく一緒に働く後輩が来るのはとても楽しみである。そして後輩がしっかり一人前の外科医に育つのをサポートすることが医局への恩返しであると思っている。

写真) 当院で科の紹介用に撮影した写真であるがとても気に入っている。



PROFILE

出身地：東京都／卒業年度：平成2年／卒業大学：秋田大学／現所属の施設・役職：秋田赤十字病院呼吸器外科部長／臨床研修センター長

15

河合
秀樹

片寄
喜久

16



愛犬の「むぎ」です



エアーズロックに登れなかった、残念

PROFILE

出身地：福島県いわき市／卒業年度：1990年／卒業大学：秋田大学／現所属の施設・役職：市立秋田総合病院 乳腺・内分泌外科 科長

AIを越えた藤井四冠—医学でも医工連携で新たな知見を—

現

在棋士界で最強と言われる藤井四冠、若干19歳6ヶ月、魔王と言われる渡辺王将・名人と王将戦を激闘中です。現在の将棋は、AIを用いた研究が盛んでいしえの常識が通用しない時代になりました。たとえば藤井四冠「神の一手と言われる「4一銀」「8八歩」は今後長く語り継がれるでしょう。数億手をあつという間に読むAIを越えたと言われた手です。このような新たな棋戦を見られる時代に生きていてほんと良かったです。古い話と自分事で恐縮ですが、数多の先生方のご協力により磁性流体法によるセンチネルリンパ節生検を確立させました。2003年には、外科学会のシンポジウムでも発表させていただきました。その後磁性体の利用は肺や食道疾患の診断・治療にも応用され、医局の大きな仕事の一つになったと自負しております。「無限の可能性を信じて」中学校自体の恩師の言葉です、自分もこの言葉を信じて還暦間際まで頑張ってきました。若手医局員の皆さんには本当

に無限の可能性があり、柔軟な発想力と瞬発力があります。地道な努力とひたむきな取り組みで、きっと良い研究ができると思っておりますし、皆さんにはできる力があります。その若い力が、発揮される事を切に願ってやみません。その為には、医学の世界に留まること無く、科学・工学・芸術・AIなど異分野との連携が重要で、新たな診断法や、治療、研究をどんどん行って下さい。楽しみにしております。第二外科開設50周年が立ちました。阿保先生に入局の挨拶に伺ったとき、結婚の報告をした時、初めての論文は赤字の訂正だらけでした。そんなこともありましたが、なんだかんだと医局にお世話になりました。感謝申し上げます。自分も外科医として手術できるのもあと少し、向上心を忘れずに、日々臨床業務に励んでおります。退職したら、「コーヒーの飲めるそば屋」を開業?しますので、お暇な方はおいで下さい。阿保先生をはじめ、医局員皆様のご多幸とご活躍をお祈りしております。

齊藤元

17



*顔写真：第47回日本外科系連合学会学術集会 (2022.06.15-17@盛岡) ポスターより引用

PROFILE

出身地：秋田県 / 卒業年度：平成3年(1991年) / 卒業大学：秋田大学 / 現所属の施設・役職：岩手医科大学 呼吸器外科学講座・教授(2018年4月～)

祝 秋田大学第二外科開講50周年

秋 田大学第二外科開講50周年に際し、心よりお祝いを申し上げます。私の医師キャリアの大半を占める第二外科在籍時代、超人的歴代教授からは大変多くの事をご教示いただきました。初代の阿保七三郎教授からは外科医としての姿勢・心構えを、二代目の小川純一教授からは呼吸器外科手術全般と教育への情熱・医工連携・実学について、そして三代目の南谷佳弘教授からは呼吸器外科診療全般と研究マインドを持った臨床医師像に関して。時代はそれぞれ違いますが、当時最先端かつ医学における普遍的概念をご教授いただきました。また、第二外科同門の諸先生方も人格者ぞろい。今の自分があるのも同門のおかげであり、深く感謝するとともに、その絆を一生の宝として今後も大切にしていきたいと思えます。ところで縁あって数年前から他大学で教室を受け持つ機会をいただきました。今後も第二外科の長所を参考にしつつ、バランスのとれた良い教室を目指していきたいと思えます。

【今後の抱負】

外科医の幸せは小さな喜びの積み重ね。
出血なく無事に手術が終わった時
満足いく郭清が出来た時
術後 air leak が止まった時
炎症反応が沈静化した時
外来CTで再発がなかった時
化学療法でPRとなった時
無事に退院した時
患者さんに感謝された時
統計解析で有意差が出た時
論文が採択された時
入局者がいた時
そして、チームの仲が良ければ、仕事の出来も良いものです。これらの喜びを仲間とより多く享受できるよう、日々研鑽を積みしたいと思います。

にげかのおもいで



八

局した理由 学生実習のBSTで回った際、2外科の先生方が、とても自由に楽しそうに仕事をされていて、実力もピカイチに見えてこんな医者になれたらいいなと思わせてくれたから。
【印象に残る手術】 何事もなかった手術はあまり覚えていませんが、出血がひどかったり、術後合併症を起こしたり、外傷で助けられなかった症例・手術は印象に残っています。転落による外傷性出血性ショックで、ダメージコントロールとして腹腔内出血の止血を行った後、2回目の手術で、脾臓損傷と十二指腸壊死に対し、脾臓十二指腸切除を施行したものの再建まで行わず、3回目の手術で再建を行う方針にしたところ、3回目の手術では、脾液の漏れと癒着にて、再建ができず、その後、感染に伴う出血で失った症例など。
【一番うれしかったエピソード】 個人的なことになりますが、大学の医局時代に第1子が産まれ、みんなから祝福して頂いたこと。
【第2外科の魅力】 やはり、自由に楽しく仕事に取り組めること
【先輩医師との思い出】 大学にいた頃は、臨

床での関わりが少なかったこともあります。学会に参加して、その先々で、諸先輩方と飲んだり出歩いたりしたことや、院内卓球大会、東北大学との野球の定期戦、東京ドームや樹海ドームでの慶応大学呼吸器外科との野球の試合など楽しかった思い出です。
【若手医師へのメッセージ】 若い頃には体力もあり、体に不自由を感じることもあまりないと思いますが、余裕ができたならやろうと思ったことが、いろんな意味で困難になってしまうこともあります。やりたいと思ったときにできるだけやるようにしましょう。
【休日の過ごし方や趣味】 今はゴルフに嵌っています。
【これからについて】 新庄病院は2023年秋に新築移転の予定です。新病院で仕事をさせていただける方を募集しておりますので、我こそはという方は、お声がけください。

PROFILE

出身地：京都府京丹後市 / 卒業年度：1991年 / 卒業大学：秋田大学 / 現所属の施設・役職：山形県立新庄病院・副院長



18

松本秀一

戸沢香澄

19

大

学の医局を離れて20年以上が過ぎてしまいました。時々医局に立ち寄ることがありますが、今は女医さんが多くとても華やかな雰囲気を感じます。私が入局した頃は女子で外科系に入局する人は少なく、隣の第一外科に2人、小児外科に1人、脳外科に1人の先輩や同期がいたぐらいだと思います。第二外科から直接勧誘された記憶はないのですが、それでも胸部にかかわる医者になりたいと自ら勝手に押しかけました。初期研修の2年間は地元の由利組合総合病院で過ごしましたが、やる気があるのかわからない女医は扱いにくかったらうと思っています。初期研修を終えて戻った大学の医局は、臨床と研究と学会に加え、学生の勧誘であっという間に月日が過ぎていきました。当時は食道外科主体の医局でしたので、食道外科の術前術後管理に明け暮れる日々でした。大学の医局生活の後半は学位取得のための研究が中心となり、午前の実験が終わると昼は医局で阿保教授と一緒に弁当を食べ、時には教授から食後

のおやつをいただきました。ほどなく医局に戻ってきた北村助教授(今でいう准教授)が一言、「戸沢さん、福岡に行かない？ 食道と肺の重複癌の抄録の締め切りは明日までだけどね」と。その日の午後は地下のカルテ庫に籠って抄録作成をしました。このような軽いノリで学会に演題を出していたので、日本では山陰地方を除けばほとんどの県に足を踏み入れたのではないかと思います。よく働いてよく遊ぶとても楽しい大学の医局生活でした。医局を離れていくつかの病院を経由し、由利に戻って十数年になりましたが、今度は私が研修医を指導する立場となりました。最近では研修医の両親が私より若いこともよくあることです。自分の子供のような研修医に私が大学の医局で経験できたことを少しでも伝え、後輩たちが日々の仕事を楽しめることができれば嬉しいです。



PROFILE

出身地：秋田県由利本荘市 / 卒業年度：1991年(平成3年) / 卒業大学：秋田大学医学部 / 現所属の施設・役職：由利組合総合病院・診療部長

折野 公人

20

PROFILE

出身地:秋田県秋田市 / 卒業年度:1993年(平成5年)3月 / 卒業大学:秋田大学 / 現所属の施設・役職:JA秋田厚生連 由利組合総合病院 呼吸器外科科長



ぶつけるんじゃないぞ

学生時代の私は準硬式野球部に属し、ピッチャーをしていました。デッドボールをぶつけられたことより、ぶつけたことの方が多いです。ぶつけられると、痛い。ぶつけた方は、申し訳ない思いで心が痛みます。でも、試合には勝ちたい。決して快速球を投げるわけではない私が投げ勝つためには、やはりインコースを攻める投球をしなければなりません。ある日、2外科の先輩に、東京での呼吸器外科学会に誘われました。というよりも、野

球の試合に誘われたのです。相手は彼の有名な、陸の王者大学。かくして2003年某日の早朝、私は東京ドームのマウンドに立つことになりました。これは、「夢?」じゃない。陸の王者大学のBIG BOSSは、2番打者。ストライクゾーンに被さるようなその構えは、インコースを攻められないための対策と判断できます。過去2大会において、我が野球軍よりデッドボールを受けているそうです。「ぶつけるんじゃないぞ」先輩から言われていた言葉が、脳裏をよぎりました。O教授(当時)が、スタンドから見下ろしてい

ます。私がぶつけたら3度目。今まで築いてきた両大学の関係に、亀裂が入ることになったと考え、その中心にいる自分の緊張たるや、推して知るべし。しかし、敬遠は誰も望んでいません。いざ、インコース勝負!結果、3度目は起らず、我が軍もめでたく勝利したのです。安堵しましたが、今振り返ってみると、あの時、私がおもひぶつけていたら…。密かに、3度目というオチを期待していた人がいたかも知れません。

第二外科(ニゲ)に入局して27年

第二外科開講50周年誠にありがとうございます。この機会に自分と第二外科との関わりを記したいと思います。1994年9月、6年生で迎えた臨床実習の最後はニゲでした。当時ニゲの先生方は、いつも病棟、手術室やICUで働いており、全身を診て治すそのお姿は自分にとって憧れでした。実習最終日、阿保七三郎教授室へ。教授は笑顔で握手してください、入局のお祝いとしてオールドパーを下さいました。初期研修は奥山学先生、今野広志先生と由利組合病院でした。当時は医局のソファに寝泊まりし、20時のICU面会が終わると飲み屋に繰り出し、0時にICU患者さんをチェックしに戻り、たまにアパートに帰るという生活を2年続けました。真夜中にアペの臨時手術や、コンビニ受診が当たり前でした。充実した研修を終え大学に戻ると小川純一教授が赴任されており、5年目を迎える前に臓器を選択することとなりました。奥山先生が食道外科を希望したので、それなら自分は呼吸器で、という簡単な理由でした。しかし呼吸器外科は奥が深く魅

力的で自分に合った専門領域でした。胸腔鏡手術が普及し始めた頃に主に生検、気胸や部分切除を担当、徐々に肺がん手術もご指導いただきました。学位は、肺がんのセンチネルリンパ節研究で取得し、それがきっかけで米国へ研究留学する機会もいただきました。2008年、仙北組合病院(現・大曲厚生医療センター)に呼吸器外科を立ち上げるため一人科長として赴任。まったくゼロからのスタートでしたが、小川教授、南谷教授や斎藤元教授を始め医局の皆さまに支えられながら発展し続けています。2021年末現在、常勤3~4人体制で、手術件数は100件/年を超え、外来・入院患者数とも右肩上がりが続いています。横手、湯沢や十文字からの紹介も増えてきました。こうして県南の呼吸器センターとして頼りにされる存在になれたのは、ひとえにニゲのお陰です。若いころに憧れた何でも診て何でも治す外科医に近づいていると日々実感しています。

PROFILE

出身地:神奈川県横浜市 / 卒業年度:1995年(平成7年) / 卒業大学:秋田大学 / 現所属の施設・役職:大曲厚生医療センター・呼吸器外科診療部長



上:1995年4月、同期の田澤大、奥山学と阿保教授室で、外科医人生のスタート。左下:憧れの外科バッジと、学生時代のバッジ。外科バッジは、イチゲもニゲも共通で、現在のような写真入り名刺ではなかった。右下:2021年度メンバー:藤嶋悠志、鈴木洋平、五十嵐至(心外からのたすき掛け研修)



21 中川 拓

【座】

右の銘) 外科医人生、生涯一研修医(研修時代の先輩の名言です)。

【入局した理由】

面倒見の良い先輩、ゆかいな同期。

【印象に残る手術】

厳しい状況から救命できた緊急手術。

【第二外科で一番うれしかったエピソード】

学会発表でお褒めの言葉をいただいたこと。

【第二外科の魅力】

守備範囲が広い。胸も腹も診る。

見た目は怖いけどホントは優しい(〇〇ランドと呼ばれていた?)。

【先輩医師との思い出】

きつく長い食道の手術と楽しい術後管理(飲み会)。

【若手医師へのメッセージ】

君たちは可能性に満ちている。

【休日の過ごし方や趣味について】

サッカー観戦(主に動画、たまに実戦)。

【これから先に目指していきたい事】

患者さんとともに年を取ってきていることを実感する毎日ですが、今日より明日は少しでも賢く、上手くありたいと考えています。

PROFILE

出身地:秋田県秋田市 / 卒業年度:平成7年 / 卒業大学:群馬大学 / 現所属の施設・役職:秋田厚生医療センター-外科



22

今野 広志

三井 匡史

23



PROFILE

出身地:神奈川県鎌倉市 / 卒業年度:平成8年 / 卒業大学:秋田大学 / 現所属の施設・役職:八戸市立市民病院 診療局長兼呼吸器外科部長兼集中治療室長

お初寿司

初

初めての手術を執刀させてもらえたら、その機会を与えてくれたことや指導してくれたことなどに感謝して、科のメンバー全員にお寿司を振舞うこと。自分はそのように認識しています。その慣習は外科の古い伝統のようで、場所によっては既に廃れているようですが、自分のいる病院では形式は若干違えどずっと続いています。それを振り返ってみたいと思います。自分が研修した由利組では、原則その手術の当日に特上寿司を人数分の出前を取りました。なんならビールも頼りま

す。当時外科は10人程度だったので、大体一回の寿司に3万円はかかったはず。それをその日の仕事が終わったら、医局で皆で食べていました。3年目にいた大学病院でどうしていたのか、記憶がありません。そもそも自分が大学でお初の手術をしていなかったのかもしれない。4、5年目は医科歯科大で研究生活だったので、当然お初などもありません。6年目の角館では3人体制だったこともあり、3人でお寿司屋さんに行き、全額(2~3万くらい?)を支払いました。7、8年目にいた仙北組合病院では、お初の日に5千円の大きな寿司桶を2つ頼むというしきたりで(つまり1万円の支払い)、それを手術が終わったら皆で食べました。9年目の秋組でお初の寿司の記憶がありません。もしかしたらお初手術がなかったのかもしれない。10~14年目の能代医師会でも、お初寿司の記憶がありません。能代に来た部下たちも皆親切などは既にやっていたので、そもそもお初の手術がなかったのかもしれない。15年目から現在までの八戸では、まだスタッフが2~3人のころはお寿司屋さんに行き、執刀医が全額負担していたと記憶しています。最近スタッフが増えてからは、お寿司屋さんに行かなくても、お初の執刀医が3万円出費して足りない分を皆で割っていました。さらに八戸では外科と当科で合同に催している、「初の会」なる仕組みもあります。研修医連はお初の手術ごとに1本と称して1万円を積み立てます。年度末にそのお金をつかって盛大な宴会「初の会」を開催します。昨年はコロナでやれませんでした。当院の研修では外科は必須なので、かなりの額があつちます。ちょっとやけどな世界です。ここから、個人的なお初寿司の話です。というのも、自分にとって忘れられないお初寿司があるので。3年目で大学にいたときですが、病院は鶴岡協立でのバイトです。朝の特急に乗って鶴岡に昼頃着き、午後は手術か麻酔かを担当します。手術も助手に入ることもあれば、簡単な手術では執刀させてくれることもあります。その日は鼠径ヘルニアの手術だったので、自分が執刀医だと告げられました。

大学で鼠ヘルなどやるはずもなく、研修以来数か月振りの鼠ヘルの執刀です。研修した由利では全てメッシュプラグ法だったので、それとなく質問すると、鶴岡にはメッシュプラグはおいでなく、「うちはMcVayだ」と。マク・ベイ。勿論研修医時代に鼠ヘルをやる時には、BassiniもMcVayもilio-pubic tract repairも勉強はしました。由利で鼠ヘルの手術は結構やりましたが、全例メッシュプラグでやっていたので、古典的術手技の勉強も一通りやった程度で、McVayの詳細な手術手順など覚えているはずがありません。ネットがない時代ですので、ググることも不可能です。当然、「初めてですので教えて下さい」と頭を下げました。優しい二外科の先輩方は、そんなことも知らないのか、などと自分を叱ることもなく、優しく指導してもらいながら手術を終えました。当時午後の仕事が終わったら、院内でビールを乾杯(早ければ17時より前から...)。それから必ずボウリング。自分以外は皆がマイボールをロッカーから出してくるのに驚きます。ひと汗かいたら、それから飲みに行きます。そこまではルーチンです。その日は外科が常連としてお寿司屋さんに来ていてもらいました。確か当時スタッフが5人、自分を入れて6人だったと思います。さんざん食べて会計となり、お店から渡された紙を一瞥してT先生は軽く頷いて、そのままその紙を自分に回してくれました。6~7万円が記載されていたと記憶しています。しかしその日の自分の財布には8万円は入っていることを皆が知っています。そう、当時バイト代はその日に現金で支払われたので、半日の勤務と夜間の外科当番で8万円の報酬を受け取っていたのです。6~7万円など、お安い御用ですね。軽くひきつった顔が気づかれないように、「初McVay、ありがとうございます」と笑顔で挨拶をして終わりました。自分にとって6~7万円を奢ったことはそれまでなかったもので、大人の階段を上らせてもらえた、いい経験になりました。はたして、自分がいたことのない関連病院ではどうしているか気になりました。よかったら、何かの機会に教えてくださいました。

本間 恵

24

朝野球の思い出

私

は野球の経験もなく単なる観る専の野球愛好者で、中高時代の夜は寝る前にプロ野球ニュースをみるのが日課でした。私が医局の若手だった頃は若手の仕事の一つとして朝野球の参加があり、当然私も参加するものだと思っていたのですが、本気で優勝を狙っている先輩たちには「本間は来なくていいから明日はゆっくりでいいよ」と言われがっかりしつつ、「黄色い声じゃないけど応援に行きます」と無理やり押し付けて行きました。ある日、一人寝坊で欠員が出たので、待ってましたとばかりに素人の私が手を上げると、先輩たちはしばらく考えた後、「そうだな、本間も一応女だから当てたら大変だと思って相手はフォアボールを出すだろう」と許可が出ました。うきうきと生まれた初めてのバッターボックス、調子に乗ってインコース寄りに立ちました。何球かボールとなった後のこと、相手投手が投

げたボールを一瞬見失ったかと思ったら、私の振ることもなく構えたままのバットにコツッと当たりました。驚いて打球を追うとファウルになっていません。慌てて得意のがんちゃん走りて1塁に向かうとセーフ。私の中で燦然と輝く「大リーグボール1号を安打にした事件」です。その後は寝坊の先生が到着し本塁を踏むことなく交代したのでほんの10分位の出来事なのですが、楽しい思い出となり寝坊の先生にはまだに感謝しています。雇用機会均等法から間もなく、まだまだ男女の仕事が分かれているような平成前半ではありましたが野球以外、仕事の上では性別がどうかということもなく、各医局員の多様性を楽しむ、時代に先駆けた居心地の良い医局に育てて頂き、現在思ってもみない大きな仕事に挑まさせていただいております。本当に有難いことです。私に関わって下さった全ての先生方に心より感謝申し上げます。

PROFILE 出身地:東京都(小学校まで山形県) / 卒業年度:1997年卒 / 卒業大学:秋田大学 / 現所属の施設・役職:八潮中央総合病院 院長



医局の歴史

外

科医が一人で手術をしたら…誰も手伝ってくれないから、相当危険な行為である。手術は、上司の経験、若手の情熱、看護師の配慮、そして一刻も早く帰りたい医学生の冷静さ(出血しても画面が全くブレない胸腔鏡)が最高の技術を紡ぎ出す。患者が身を任せてくれるのは、私たちが「第2外科」という名刺を持っているからである。「第2外科」の信頼で手術をしている。組織は分業である。それぞれがプロ意識を持って活躍している。1人で全部やったら、効率が悪いだろう。手術のノウハウは組織に蓄積される。どのような操作が危険か、どういう患者に合併症が起こるか、といった経験は、歴代教授が痛い目にあつた結果として得られるものである。私たちが一人で手術を始めたら、最初は失敗ばかりである。組織は不合理で理不尽なことも多い。しかし、それを補って余りある経験と歴史が「第2外科」という組織に宿る。3代教授の至極の金言をみなさんに紹介しよう!

手術は早く、発表は簡潔に〜初代:阿保七三郎先生
鏡視下手術全盛の時代である。傷を小さく、カメラ視のみで操作、そこは重要ではない。時間こそ最大の侵襲である。ヒトの体に刃物を入れるのです。最小限の侵襲にして最大の効果をあげないといけません。

それを何とかするのがオヌシの仕事だ〜2代:小川純一先生
上司から仕事を申しつけられた時、患者が合併症で具合が悪い時、逃げていませんか?上司は信じて頼っているのです(信頼)。論文を探せば解決方法が見つかるかもしれませんが、受け身ではなく自ら動くのです。

0.1cmずつでもいい、進め〜3代:南谷佳弘先生
肺動脈にリンパ節が固着している時、剥離は進まず歯が立ちません。しかし0.1cmずつで良いのです。10回繰り返せば1cmです。歩みは遅くとも、継続していれば、道が開けます。

最後は戒めに私自身へ。
心を伴わない人に技術は伴わない(京都嵐山天龍寺庭師)。突飛な技術はいらない、心が良いチームも作る。人間としての成長が、外科医の成長である。



PROFILE 出身地:秋田県横手市 / 卒業年度:2001年 / 卒業大学:秋田大学 / 現所属の施設・役職:秋田大学医学部胸部外科学講座 准教授

25

今井 博

にげかのおもいで



佐藤 雄亮

26



私のこれまで人生を振り返ると特別すぎる2年間で、未だに夢を見ていたのではないかと思う時があります。帰国してからすでに11年経ちますが、留学について思うことをここに記します。

1. 私一人が留学したいと考えていても医局の先生方のご協力を頂かなければ絶対に無理でした。何通かアプライの手紙を出しましたが返事すら来ませんでした。当然です。論文業績が全くないアジア人を有給で雇ってくれるラボなんかどこにもありません。仲介して下さった前任の中川拓先生と南谷佳弘教授、了承して下さった小川純一前教授、本山悟教授を始め食道チームの先生方には本当に感謝しています。さらに大学から助教の給料を頂けなかったら途中で経済的に破綻していました。2年間で1500万円の支出がありました。自分と家族への投資と考えれば安いかもしれませんが、留学先探しや経済的なサポートは医局に属していなければ無理だと痛感しました。
2. ラボには慶應義塾大学、東京大学、大阪大学、鹿児島大学、オランダ・ライデン大学など複数の大学から外科医、皮膚科医、泌尿器科医がリサーチフェローとして留学していました。ロスでマイノリティーとして苦楽を共にした先生方、そのご家族との交流は現在も続いており、私と私の家族にとっても非常に重要な存在です。時期が全くか

- ぶっていない先輩、後輩にも「ラボの後輩、先輩」として学会で会うたびに親しくさせてもらっています。留学する前には分かりませんでした。留学でできた多くの方とのコネクションは私の人生でとても大きな財産になりました。
3. 留学中にはラボのみなさまのご協力により筆頭2編、共著2編の業績に恵まれました。また、留学中に学んだ様々な研究方法で帰国後に食道癌に関する研究を行うことができました。特に帰国後に作製した食道癌組織マイクロアレイを解析した論文はこれまで15編掲載されています。
4. 子供たちの教育も留学中の目標の1つでした。4歳だった長女は、5歳になったころにはプレスクールの先生に、途中から来た日本人の子の親との通訳を頼まれていました。帰国後も英語が上達することの喜びを持ち続けてくれて、英語の暗唱大会、弁論大会では秋田県内では無双状態です。子供たちをうらやましく思っています。
5. ロスに住んでみて初めて日本がどれだけ安全で食べ物のおいしい国が分かりました。日本人とアメリカ人のいいところ、悪いところが見えてきました。
6. 留学に興味のある若手の先生方にはコロナ禍が明けたら是非留学してもらいたいと思っています。チャンスはただ待っているだけでは近づいて来ないかもしれません。

PROFILE 出身地:秋田県大仙市 / 卒業年度:平成13年(2001) / 卒業大学:秋田大学 / 現所属の施設・役職:胸部外科学講座 講師

留学から11年経って思うこと

2 008年8月から2010年8月まで2年間、小川純一前教授のご高配を賜りロサンゼルスにあるジョンウェイン癌研究所(John Wayne Cancer Institute)に研究留学させて頂きました。

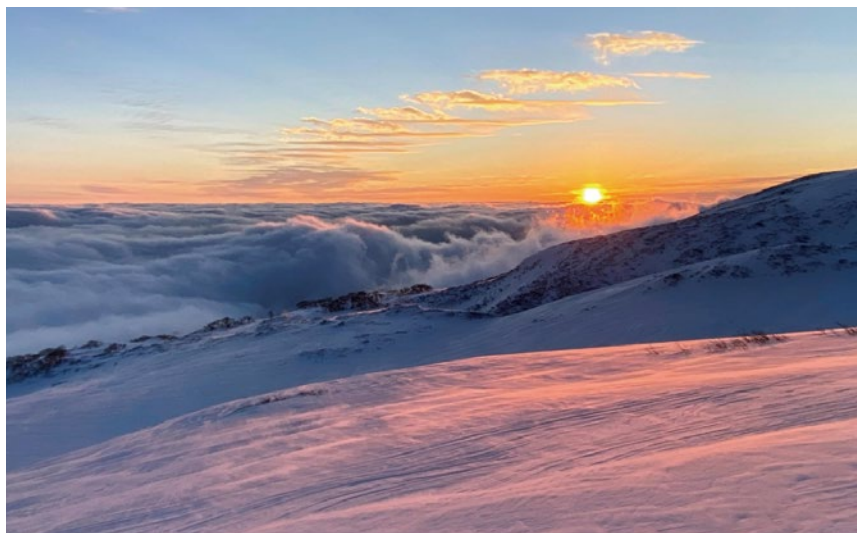
小野 貴史

27



PROFILE 出身地：秋田県横手市 / 卒業年度：2002年 / 卒業大学：秋田大学 / 現所属の施設・役職：大館市立総合病院呼吸器外科部長

大 館に赴任して7年経ちますが、手術症例だけでなく肺癌全般の診療を行っております。無事に診療を行っているのは南谷教授や第二外科先輩の先生方のご指導とご支援、一緒に働いてくれた後輩の先生らのサポートのおかげであり大変感謝しております。赴任当初、慣れない肺癌内科治療であたふたしていたことがつい先日のように感じら



鳥海山での日の出 2021年1月

れます。大館は森吉山をはじめ少し足を延ばせば岩木山、八甲田山、八幡平など素晴らしい山々に囲まれており、冬山登山をライフワークとしている私には大変恵まれた環境です。山々に活力をもらいながら、日々の診療を充実させ地域医療に貢献できるようにこれからも精進していきたいと思

外 科医になるつもりなどさらさら無かった自分ですが、大学5年生のころ礼次郎先生・本山先生の熱い勧誘に涙ながらに入局を決意しました。1年目の大学研修医、2、3年目の市立酒田病院と、3年間みっちり礼次郎先生に外科医としての心技体を学びました。特に酒田での2年間、あれほど楽しく、またあれほどつらく厳しい時期はありませんでした。もし自分に青春というものがあったら、あの2年間のことを言うのでしょう。その後の臨床も学位も専門医・技術認定医試験もおかげで乗り切ることができました。若いDr.の皆さんにも、そんな時代を過ごしてもらえればなあと思います。それから早幾年月、20年目となってまた礼次郎先生のもとで働かせていただいています。あの時と比べてお役に立っているかな?と思ひながら。故郷での臨床に心を躍らせています。第二の青春!と胸を張って言えるような日々になればと思っています。

PROFILE 出身地：秋田市土崎港 / 卒業年度：平成14年 / 卒業大学：秋田大学 / 現所属の施設・役職：秋田厚生医療センター消化器外科 診療部長



宇佐美 修悦

28

人

に言う「うっすい」とからかわれますが、思い返せば高3の夏に友達に借りた「研修医なな子」を見て、医者を目指しました。女性の外科研修医の漫画でした。学生の頃は精神科か神経内科が良いかと考えておりましたが、臨床実習で手術に入って「乳腺外科って面白いかも」と思ったのがきっかけで2外科に入りました。ただ「おもしろそう」という理由だけで外科に進み何もわからない自分でしたが、あれから22年。今もこうして患者さんの前に立って手術をする日々を送っています。外科に入った後は「研修医なな子」そのものの生活で、いろいろしてかしてばかりでした。冷や汗をかいたことも

PROFILE 出身地：秋田県 / 卒業年度：平成15年 / 卒業大学：秋田大学 / 現所属の施設・役職：秋田赤十字病院 乳腺外科科長

多く、本当に一歩間違えると今こうしていることができなかつたと思います。医者になって20年の間に時代は進み、治療も進歩し、自分も少し成長しました。今こうして乳腺外科としていられるのはたくさんの先生方が手を抜かず指導してくれ周りの人たちが暖かく見守ってくれたおかげです。感謝の言葉では言い表せません。そして今は、手術に関してはいろいろ自由に方法を変えられる立場になったので、患者さんによってはオンコプラスティック的な要素を加えながらより満足度の高い手術を目指しています。まだまだ成長途中で、いろいろとご迷惑をかける場面もありますが今後ともよろしくお願ひいたします!



29

伊藤 亜樹

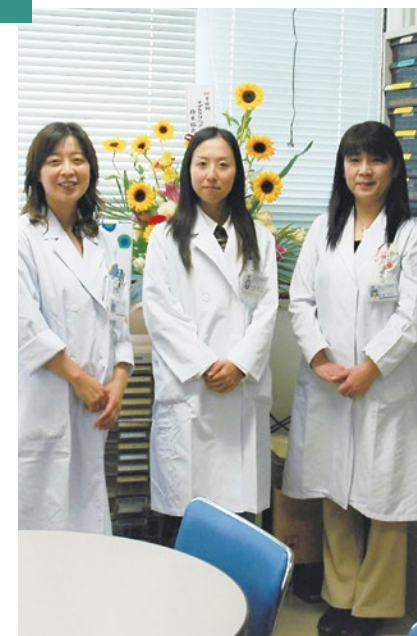
小玉 純

30

第二外科医局より —佐藤さんとの出会いから今日まで—

2 000年の12月1日、「佐藤です。やっぱりね。あなたに決まると思ってた!宜しくね。」と、優しく、よく通る声で挨拶してくれたのが、当時の医局秘書の佐藤(光子)さんでした。その1か月前、医局秘書の採用選考日、初冬の夕暮れで、すでに薄暗くなりかけていた臨床研究棟の正面玄関へ入ると、正面のエレベータ前に黒髪のストレートロングの女性がこちらを見て、「もしかして、2外科へ?」と声を掛けて医局まで案内してもらったのが始まりでした。後に、「私と偶然会うと、何故か、その人が採用されるのよね」と笑って教えてくれました。採用されてからも、しばらくは佐藤さんのお手伝い程度のことしかできず、4西病棟や地下の病歴カルテ、外来との使い走りや動き回る私を佐藤さんはいつも笑いながら根気よく指導してくださり、小川純一教授、医局長の齊藤礼次郎先生をはじめ、医局員、同門の先生方からも見習い秘書として大事に守っていただいたことは本当にありがたく心から感謝いたします。医局は、先生方のみ

ならず、看護師さんや職員や学生、MRさんなど自由に入出入りして、佐藤さんを慕ってくる人も多く、誰よりも感情豊かな佐藤さんに私はいつも振り回されっぱなしで、医局はいつも笑い声が絶えず賑やかすぎるし、隣の1外科の先生や秘書さんともパーティー越しに会話したり、叱られたり(煩すぎて)していました。これまで佐藤さん、お世話になった先生方から頂いた恩を直接、お返しすることはできませんが、少しでも医局へ還元できるよう日々奮闘しています。あの日から、医局は大分様変わりになりましたが、このたび開講50周年を迎えることができました。医局のスタッフも強力な助っ人の医師事務の原田さん、研究補佐の高橋さんから若松さんへ、そして医局秘書も佐藤さんの退職後は、高橋佳代さん、今は野呂田真実さんへ引き継がれて、医局を支えてもらっています。私も次のバトンが渡せる日まで、今日も医局を眺めてから忙しい一日が始まります。



PROFILE 医局秘書

ETHICON
PART OF THE Johnson & Johnson FAMILY OF COMPANIES

ECHELON ENDOPATH® Staple Line Reinforcement

従来通りの操作性を維持したまま、
ステープルラインの補強・止血をサポート



販売名: エシェロン エンドパス ステープルライン リンフォースメント 承認番号: 30300BZX0044000
販売名: エンドスコピック パワード リニヤー カッター 承認番号: 22500BZX00396000
販売名: GSTカートリッジ 承認番号: 22700BZX00155000
製造販売元: ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 メディカルカンパニー 〒101-0065 東京都千代田区西神田3丁目5番2号

175045-210427
©J&JKK2021

MediChannel

欲しい情報がお好きな時にお手元に!
日常診療にお役立て頂ける幅広い情報をご提供。
是非ご登録下さい。

探しやすい製品情報

添付文書やインタビューフォームなどの製品情報に加え、よくあるご質問を製品Q&Aとしてご紹介。簡単に目的の情報にたどりつくことができます。

疾患領域ごとのコンテンツを強化

各疾患領域ごとに素材やツールを数多く準備。日々の診療や、院内勉強会・学会発表などに幅広くご利用いただけます。

オンライン講演会

先生方で自身のPCやスマートフォンにてシンポジウムをリアルタイムでご視聴頂けるサービスも展開中!
(事前登録制)

ご自宅から視聴可能!
AZ-Live

患者さんへの診療に役立つ情報を提供

インフォームドコンセント資料や患者指導用資料が充実。日常診療でお使いいただけるツールや患者さんとのコミュニケーションで役立つ情報をご紹介します。

アストラゼネカ製品に関する医薬品情報が検索できます!

AZmedicalはアストラゼネカ製品に関する医薬品情報(製品回答書)が検索できるサイトです。検索や製品・疾患フィルタにより、必要な医薬品情報にアクセスできます。

ご登録は、申込み用紙を弊社MRIにお渡しいただくか、こちらのURLまたは二次元コードからお申し込みいただけます。

AZ医療情報 検索 <https://med.astrazeneca.co.jp/>



お申込み後、アストラゼネカより「登録確認のお願い」メールが届きますので、メールに記載されているリンクより本登録を完了させてください。このリンクは1週間のみ有効です。

アストラゼネカ株式会社

2021年8月作成

医師サポート

信頼の対応力。

医療現場の真剣なまなざしをサポート



信頼 届けて 半世紀
株式会社 秋田医科器械店

- 本社 秋田市仁井田字中谷地130-2 〒010-1423 Tel.018-839-3551・Fax.018-839-3546
- 横手営業所 横手市赤坂字大道向2-4 〒013-0064 Tel.0182-32-8311・Fax.0182-32-8313
- 能代営業所 能代市落合字釜谷地189 〒016-0014 Tel.0185-52-0024・Fax.0185-54-7319




抗悪性腫瘍剤 / 抗PD-L1^{注1)}ヒト化モノクローナル抗体 薬価基準収載
 生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品^{注2)}
テセントリク[®]点滴静注 1200mg
 TECENTRIQ[®] atezolizumab
アテゾリズマブ (遺伝子組換え) 注
 ※F.ホフマン-ラ・ロシュ社 (スイス) 登録商標

抗悪性腫瘍剤 抗VEGF^{注2)}ヒト化モノクローナル抗体 薬価基準収載
 生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品^{注2)}
アバスチン[®]点滴静注用 100mg/4mL 400mg/16mL
 AVASTIN[®] bevacizumab
ベバシズマブ (遺伝子組換え) 注

注1) PD-L1: Programmed Death-Ligand 1 注2) VEGF: Vascular Endothelial Growth Factor (血管内皮増殖因子)
 注※) 注意—医師等の処方箋により使用すること

効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む使用上の注意、効能又は効果に関連する注意、用法及び用量
 に関連する注意等は製品添付文書をご参照ください。

製造販売元  **中外製薬株式会社** CHUGAI 〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1 Roche ロシュグループ メデカルインフォメーション部 TEL.0120-189-706 FAX.0120-189-705 販売情報提供活動に関する問い合わせ先 https://www.chugai-pharm.co.jp/guideline/



血漿分画製剤

薬価基準収載

ボルヒール® 組織接着用

生体組織接着剤 **BOLHEAL®** 献血

特定生物由来製品 処方箋医薬品 注意-医師等の処方箋により使用すること

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元
KMバイオロジクス株式会社
 熊本市北区大窪一丁目6番1号

販売元
 一般社団法人
JB 日本血液製剤機構
 東京都港区芝浦3-1-1

BOL-202007

[文献請求先及び問い合わせ先]

一般社団法人 日本血液製剤機構 くすり相談室 〒108-0023 東京都港区芝浦3-1-1 医療関係者向け製品情報サイト <https://www.jbpo.or.jp/med/di/>



抗悪性腫瘍剤 (CDK4/6阻害剤)

イブランス® カプセル錠

IBRANCE® 25mg・125mg Capsules / Tablets パルボシクリブカプセル/錠

劇薬 処方箋医薬品 注意-医師等の処方箋により使用すること

薬価基準収載

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等は、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元

ファイザー株式会社

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7

文献請求先及び製品の問い合わせ先: 販売情報提供活動に関するご意見:
 製品情報センター 学術情報ダイヤル 0120-664-467 0120-407-947

2021年6月作成
 IBN72K001C



外皮用殺菌消毒剤(オラネキシジングルコン酸塩液)

保険適用

オラネジン® 消毒液1.5%

Olanedine. Antiseptic Solution 1.5%
Olanedine. Solution 1.5% Antiseptic Applicator 10mL・25mL

オラネジン® 液1.5%消毒用アプリーケーター10mL・25mL

オラネジン® 消毒液1.5% OR

Olanedine. Antiseptic Solution 1.5% OR
Olanedine. Solution 1.5% OR Antiseptic Applicator 10mL・25mL

オラネジン® 液1.5% OR消毒用アプリーケーター10mL・25mL



効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は、電子添文をご参照ください。

Otsuka 製造販売元
株式会社大塚製薬工場
徳島県鳴門市撫養町立岩芥原115

販売提携
大塚製薬株式会社
東京都千代田区神田司町2-9

文献請求先及び問い合わせ先
株式会社大塚製薬工場 輸液DIセンター
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-2 (21.10作成)

いつもを、いつまでも。

あたり前のようにつづく毎日ほど、

かけがえないものはない。

私たちは、“いつも”を支える力になりたい。

大切な“いつも”が失われた時、

強く取り戻す力を届けたい。

いつもを、いつまでも。

私たち大鵬薬品ひとりひとりの願いです。



memo

Horizontal lines for writing a memo on page 29.

memo

Horizontal lines for writing a memo on page 30.